

令和4年度全国学力・学習状況調査における本校の結果及び今後の取組について

令和4年9月7日
小樽市立朝里中学校
校長 森 万喜子

本校では、保護者と学校運営協議会委員（学校評議員）の方に、全国学力・学習状況調査における自校の生徒の学力及び学習状況の結果と今後の改善策等についてお示しし、学校と家庭が、お互いの役割を認識しながら子どもたちの学力向上につなげることが必要であると考え、以下の内容についてお知らせすることとしました。

本校の結果については、下記の状況となっておりますが、「教科の調査結果」については、学校では、これを日常の授業改善に役立て、家庭では生活習慣等の見直しの参考としながら、次世代を担う子供に身につけさせたい資質・能力をバランスよく育てていきたいと考えております。

今後とも本校の取組等についてご理解・ご協力願います。

記

1 調査の概要

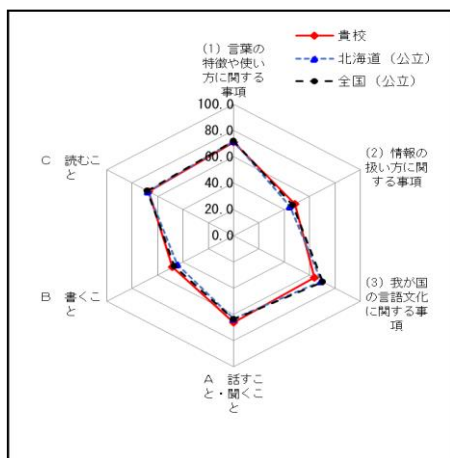
実施日：4月19日 対象：3学年 調査内容：国語、数学、理科、生徒質問紙

2 教科の調査結果

「全国・全道・小樽市」の平均正答率と「本校の状況を全国との差」

	国語	数学	理科
全国	69.0	51.4	49.3
全道	69	49	49
小樽市	69	46	48
朝里中学校	68	45	45

(1) 国語



○本調査で本校生徒の正答率が高い問い

- ① 聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を直す問い。
- ② 漢字の行書の読みやすい書き方について選択する問い。

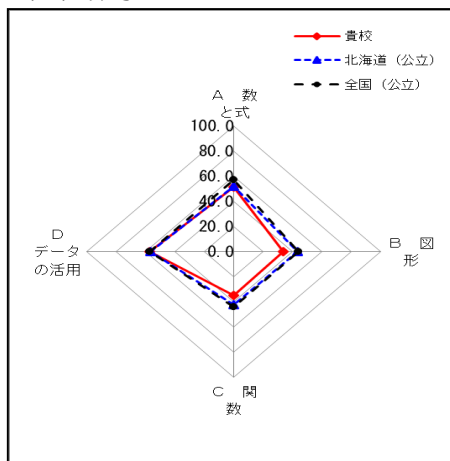
●本調査で本校生徒の正答率が低い問い

- ① 行書の特徴について選択する問い。
- ② 場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写をもとに展開を取り上げて書く問い。

★改善方策

よって授業においては、①点や画の形が丸みを帯びる場合や止め・はね・払いの形が変わる場合があること等、漢字練習時に教える。②情景描写から登場人物の心情に迫れるよう発問を工夫し、読解力を向上することを進めます。

(2) 数学



○本調査で本校生徒の正答率が高い問い

- ① 多数の観察や多数回の試行によって得られる確率を選択する問い。
- ② 問題場面における考察の対象を明確に捉え、答える問い。

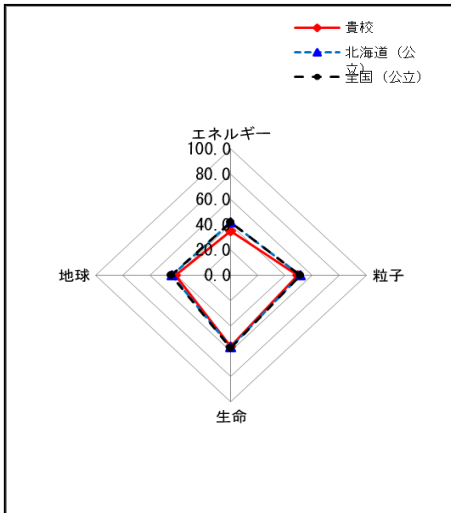
●本調査で本校生徒の正答率が低い問い

- ① 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を説明する問い。
- ② 筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明する問い。

★改善方策

よって授業においては、①事象を数学的に説明する場面を意図的に設定し、説明の正答例を明確にする。②単元テストで数学的な思考を説明する問いを出題する。③他教科とも連携し、説明を書かせる場面の設定を増やすことを進めます。

(3) 理科



○本調査で本校生徒の正答率が高い問い

- ① 化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に**化学反応式で表す**問い。
- ② 複数の脊推動物の外部形態の考察を行う場面において、あしの骨格について共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、共通点と相違点を分析して**選択する**問い。

●本調査で本校生徒の正答率が低い問い

- ① 力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を**説明する**問い。
- ② 測定値の増やし方について、測定する範囲と刻み幅の視点から実験の計画を検討して改善できるか**説明する**問い。

★改善方策

よって授業においては、①見いだした規則性や関係性を基に考察し、説明する機会を充実させる。②新たな問題を見だし、課題を設定して科学的に探求する。ことを進めます。

3 生徒質問紙の調査結果

(1) 本校の児童生徒の傾向

本調査から生徒の傾向として、学校や教師への信頼が厚く、授業への意欲が窺えます。失敗を恐れず前向きに挑戦すると、さらに学校生活が楽しくなると考えられます。

4 今後の取組について

(1) 教育の方向性

本調査の結果から、心情の変化や事象について説明する問題が苦手とわかりました。要因として、「自分の考えをまとめ、説明する場」が不足していることが上げられます。時代の流れに伴い、以前のような知識を中心とした一問一答の学習から、課題を自ら調べ、その根拠から自らの考えを説明する「探求学習」へと変化しています。文部科学省が本調査で説明問題が多い理由も、次世代を担う子供に身につけさせたい資質・能力の定着状況を確認したいと説明しています。以上のことから本校において以下のことを重点として取り組みます。

- ① 心理的安全性が保たれた、楽しい生活環境を継続します。
- ② 探求授業の充実を目指し、「自ら調べ、まとめ、説明する場」を計画的に設定します。
- ③ 個別最適な教育を目指し、ICTを活用した個別学習・自由進度学習を勧めます。

(2) 家庭学習の定着に向けた取組

生徒質問紙の結果から、「自分で計画を立てて勉強している」生徒が少ないことがわかります。生徒からは「勉強の仕方が分からない」との声も聞こえてきます。このことから、単元の見通しや家庭学習方法を明確に示し、chrome book を家庭学習に活用できるよう考えます。

(3) 生活習慣の確立に向けた取組

生徒質問紙の結果から、64.3%の生徒が平日にインターネット・携帯電話（学習以外）を3時間以上使用しています。この結果は年々増えてきています。伴って、就寝時間が不規則になっている事ことから、午前中は眠たくて元気のない生徒も見られます。是非、使い方について家庭で相談し、より良い使い方を考えてみてください。

